

あしおとでつながろう！プロジェクト 設立趣意書

あしおとでつながろう！プロジェクトはタップダンサーおどるなつこが始めた、社会的な試みです。

タップダンスを通して出会った障がいのある方々の状況、表現の場を求めるアーティスト、タップ用板の確保で直面した日本林業の衰退。それぞれの事は別の分野ですが、問題の根は私たちの日々の選択ひとつひとつのように感じられます。状況を知り、コミュニケーションを図り、お互いに助け合う社会へとむかえるように、このプロジェクトでは、タップダンスはひとつをつなぐツールと考えます。タップダンスを通じて分断した層の人々が出会い、踊り合う体感から互いへの理解が深まる場を設けることで、その価値観が他の地域にも波及する事を望んでいます。

「マブイ・ジャムセッション」

東京では多く開催されているタップ・ジャムセッションを神奈川県内にて月1回開催。ミュージシャン、ダンサーのみならず、福祉関係者とも連携して、障がいのある方がヘルパーを伴って余暇を楽しむ場所としてもご利用頂けるようなシステムをつくります。年に1度、様々なアーティストも招聘する「マブイ・ジャムまつり」を開催し、プロジェクトの周知、波及をはかります。（注：マブイとは沖縄の方言で、生きている人の魂）

「施設内パフォーマンス」

上記マブイ・ジャムセッションは人々の障がいへの理解を育み、各アーティストもパフォーマンスの要望のある場所がたくさんある事に気づきます。下記国産杉のタップ板を持ちこむことで、施設内から外出できない方々のための施設内パフォーマンスが可能になります。重度の方を支援している小さな施設や、作業所へも伺います。

「簡易タップシューズの製作依頼」

布製の簡易タップシューズを考案しました。中古タップシューズのタップス（金属）回収など各団体からの無償の協力を得て、材料集めが可能になり、さらに、シューズの裁断、縫製、組み立てを施設ご利用者の作業として依頼しています。

簡易シューズが出来た頃に、それを利用した施設利用者のタップダンスワークショップ等のパフォーマンス出張に伺います。

「国産杉のタップ板」

安価な外国産材を求めつづけては、日本の山はさらに後退しふるさとすら無くなってしまふ、ということに気づきにくい経済社会です。

国産の木材及び日本の里山環境を守る意識を育てるため、特殊乾燥の国産杉を利用してタップ板を製作依頼中です。

このタップ板の上で上記簡易タップシューズを履いて踊る事で、様々な人が生きて、働き、お互いが助け合っている、ということへの相互理解へとつながる事を願います。

ダンスを通してちいさな循環の輪ができはじめています。

そのことにより、人の持つ力について、孤立化しがちな社会へ投げかけられるのではないかと、考えています。

2010年1月より10ヶ月のおどるなつこによる試行「あしおとでつながろう！福祉施設タップセッションの記録」<http://ashi-tuna.blogspot.com/>を経て、2010年11月、各分野より賛同者が集まりプロジェクトチームとして発足しました。

<連絡先>

〒247-0066 神奈川県鎌倉市山崎861 0467-43-2629
natsuko_tap@ybb.ne.jp おどるなつこ（伊藤夏子）